会 議 録

日 時	令和3年８月17日（火）14:00～16:15
場 所	総合文化センター 視聴覚室
件 名	令和3年度 第3回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、山田秀樹、安藤隆宏、酒井周文、安藤徳善、岩島留美子、小木曽恵美、 有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎、田口宏二 市関係者：小栗茂（中央公民館長） 事 務 局：松井克仁（社会教育課課長補佐）、川畑篤仁（同主事）
議　　題	**1 あいさつ** 代表　なぜコミュニティースクール化を進めるのか、おおもとのことを言えば、ひとつの理由は少子高齢化による児童生徒の減少があるし、それに伴うクラスの減少、学校の統合、教員の減少が挙げられる。また就労人口の減少による外国人の増加、外国籍の児童生徒の増加もある。これらが相まって、個人主義が大きくなり、地域でのつながりが希薄化することによって教育力の低下が進むことを国は憂いている。地域での自治会や、学校の PTA に加入しない人も出てきている。地域でのつながりを改善していくことが事の始まりだったと思う。 文科省も「地域に開かれた教育」という表現を使って、地域とともに子どもを育てるという姿勢に変わってきている。文科省は「学校を核とした地域づくり」と表現しているが、岐阜県はここ2、3年「子どもを核とした地域づくり」と表現していることがポイントとなっている。これを踏まえて私たちが目指すのは、コミュニティースクールづくりを通して、つながりのある地域を作ることだと思う。「つながり」とは大人と子ども、子どもと子ども、大人と大人、というような人とのつながりと、自然・文化・生活・スポーツ等のような物とのつながりがある。こういったつながりを作るためには、学びの場を作ること、学んだことを活かす場を作ること、共に活動する場を作ることが必要。これらの場を学校との連携の中に求める流れになっている。 学校運営協議会制度を導入すればコミュニティースクールを名乗れるけれども、学校運営協議会と地域学校協働本部が手をつないで活動できるようにするのが我々の役割である。その方向性をまとめていきたい。今回は稲津地区と釜戸地区の実践発表を分析して、提言につなげていきたい。 **2 協議「複数の校区を持つ学校の学校運営協議会・地域学校協働本部の在り方について ～釜戸小・稲津小の実践から瑞浪北中・瑞浪南中の協議会・本部の在り方を考える～」 （KJ 法によるグループ討議）** **（1）釜戸小・稲津小のこれまでの実践をもとに、それぞれの視点に沿って両校の成果と課題を明らかにする。** A グループ（レジメ３ページ参照）稲津小学校の実践について成果と課題を検討した。 ①協議会の立ち上げについては、前校長や現校長の事前の根回しや、もともとの地域活動のつながりがあったこともあり順調にできたのではないかと評価する。 ②組織図については、学校運営評議会を基本にいろいろな関係団体を取り込んで出発したという経緯がある。組織体系については今後順次見直していけばいいと思う。

③組織については、3つの委員会があり今のところ順調に活動できている。会議をどのように評価していくかとか、学校の先生の負担が大きいのではないかという意見もあった。
④構成員については、スタートしたところなのでとりあえずはいいのではないかと考える。
⑤願う子供の姿については、わかりやすくていいのではないかと評価する（ふるさと大好き～地域に誇りをもち、自分から動ける子～）。
⑥推進員（コーディネーター）については、学校の負担が大きくならないように今後推進員が中心的に動いていただく必要があると思う。
⑦年間計画は、学校が念入りに準備していただいているがコロナウイルス感染症の影響が心配される。
⑧地域への周知は、活動に関心がない方にいかにして活動を知っていただくかが課題である。

Ｂグループ　釜戸小学校の実践について成果と課題を検討した。
①協議会の立ち上げまでは、丁寧な説明、事前の説明がされたことを評価する。特に研修会を実施しより多くの人に参加してもらう機会を設けたことが良い点だった。一方でまだまだ学校主体という面が強く地域とのつながりという面では課題がある。
②組織図、③組織については、企画委員会を中心にしながらも拡大会議を設置していることから機動的な組織になっている。
④構成員については、地域の方の代表が漏れなく入っているのでいいのではないかと思う。
⑤願う子供の姿については、令和2年度と比較して令和3年度は簡潔にわかりやすく改善されている。会議で熟慮した結果だと思う。
⑥推進員（コーディネーター）については、集落支援員が務めているが、まだまだ機能していないのではないかという意見もあった。学校を知り、地域を知る方に就任していただくことが望まれる。
⑧地域への周知については、学校報が発行されており、地域に知っていただく機会になっている。今後も定期的に発行していただくことが地域と学校の協働につながると考える。以上を踏まえたうえで、これからの展開としては、地域のよさを引き出すこと、地域の声を取り入れていくことを大事にしたいと考える。そのためには地域学校協働本部の立ち上げが必要と考える。何よりも大事なのは願う子供の姿。学校は何を目指すべきか、地域は何を目指すべきか、すり合わせをしっかりして目標を立てることが重要。

（2）瑞浪南中・瑞浪北中での学校運営員会・地域学校協働本部の在り方について方向を見定める。

Ａグループ（瑞浪南中学校区について）
地域が異なり、歴史風土も異なるので、会議の人選が重要になる。目指す姿についても、「中学生らしさ」を考える必要があると思う。

Ｂグループ（瑞浪北中学校区について）
願う中学生の姿はどんなものであるか、を根本に考える必要がある。その目標に向かって進んでいけばいいのかなと思う。組織を作る際に、瑞浪北中学校区は5地区あるため、人数が多くなりすぎてしまう可能性もある。新しく作るのではなくて、小学校の既存組織を活かす形で洗い出しをして、いいところを採用していくのが良いのでは。人が集まりすぎても意見が逆に出にくくなる恐れもある。また、準備委員会を立ち上げることも必要ではないか。最後に、岐阜県の「子どもを核とした地域づくり」に関係するが、瑞浪北中学校区において「地域」とはどの地域を指すのか、学校や子どもたちにとってまだ意識しづらい面もある。自分たちの育った地域（釜戸町など）という考え方から少しでも意識を広げていける子どもが育ってくれるといいと思う。

	3 今後の見通しについて、4 提言書について **第4回 10月26日（火）地区公民館がない地区における連携・協働の在り方** （令和2、3年度の社会教育委員会の提言をまとめるにあたり、それぞれの在住地区の「地域と学校の連携・協働の在り方」について各委員にまとめていただく。） 意見 地区には住んでいるが学校の実態はほとんど把握していない。何か参考資料があればご提供願いたい。 意見 これまで数年かけて各学校に社会教育委員という存在を認知してもらおうということから活動してきた。教育長が校長会で、社会教育委員を学校運営協議会の準備委員会の委員に推薦するよう依頼はしていただいていると聞いているが、実際学校の認知度はまだ高くないことは事実。組織に加われるよう各委員から校長に働きかけていくことも重要。 **第5回 12月7日（火）提言について途中経過確認** **第6回 1月18日（火）提言の提案** **第7回 2月17日（木）提言の最終確認** **5 その他** **（1）東濃地区社会教育振興協議会大会・研修会（8/20 金：苗木交流センター）** **（瑞浪市日吉公民館発表）** まん延防止等重点措置により瑞浪市総合文化センターをメイン会場に実施 **（2）第13回岐阜県社会教育推進大会・・・県表彰および分科会発表（6団体）** **（10/8 金 12：30～16：00：瑞浪市総合文化センター）・・・参加確認** **（3）各種研修会の確認（いずれも zoom にて実施）** **①地域学校協働活動推進員等育成研修（7/1、9/2、10/7、11/4）** **フォローアップ研修（6/24、1/27）** **6 閉会の言葉**